

空知地区 学校経営研究会

1 目的

- (1) 道小・道中校長会の活動や運営について理解を深め、意見交換を通じて組織の充実強化を図る。
- (2) 学校経営に関する質問や意見を集約し、道小・道中校長会との意見交換を通じてその解明を図る。
- (3) 学校経営に関する法制上の諸問題について研究協議を深め、その解明を図る。

2 主催 空知校長会

3 日時 令和6年11月1日(火)

4 会場 まなみーる(中ホール)

5 参加者 空知管内小中学校長会員他(95名)

6 日程

14時00分～14時25分	開会式
14時25分～14時55分	全体会：教育情勢報告
15時05分～15時15分	全体会：要望事項等に対する回答及び協議
15時25分～15時55分	全体会：管内先進事例発表
16時05分～16時10分	全体会：質疑応答
16時10分～16時25分	講評
16時25分～16時30分	閉会式

7 開会式

- ・主催者挨拶 空知校長会会長 伊藤 聡 の挨拶で開会
- ・来賓挨拶 北海道教育庁空知教育局長 金田 敦史 氏
空知管内市町教育委員会教育長会 会長 吉永 洋 氏

8 全体会

(1) 教育情勢報告

①道小・道中の機構説明、全道の教育情勢

北海道中学校長会 会長 河村 克也 氏

ア 道小、道中の活動について

イ 全道研、全国研の参加や機関誌等の紹介

ウ 道小「教育情報」資料を基にした説明

②空知の教育情勢

空知校長会 事務局長 小玉 剛 氏

〈説明の概要〉

空知校長会の「活動評価アンケート」により、活動方針に対する12項目の重点について、その進捗状況を分析した結果、職員の多様性が生きる質の高い教職員集団の形成と人材育成、「令和の日本型学校教育」を目指す教育課程の実施・改善、学力や体力等の向上を図るための取組の推進、多様な専門性を有する人材の活用による業務の効率化に課題が見られた。一方、諸制度の活用や先進事例による働き方の推進については成果が見られた。これらの結果を踏まえ、空知の現状と課題について説明した。

(2) 学校経営上、法制上の諸問題の質問、要望事項に対する回答及び協議

北海道小学校長会 事務局幹事 高原 直樹 氏

北海道中学校長会 事務部幹事 小泉 寧 氏

- ① ICT活用による校務効率化の推進について(道内の現状と有効な事例等)
- ② 保護者・地域等との連携協働について(道内の現状と有効な事例等)
- ③ 副校長・教頭の業務縮減について(道内の現状と有効な事例等)

(3) 空知管内先進事例発表

〈発表〉岩見沢市立栗沢小学校長 五十嵐 吏加 氏
長沼町立長沼中学校長 尾花 靖宏 氏

① 発表の概要

今年度より指定を受け、これまで推進してきた実践について発表
〈働き方改革〉

推進するにあたり課題として挙げられることは、教員が指導する3部活動、単学級（国語専科加配）、特別支援学級が2学級でゆとりがない、何でも「教頭先生！」文化、学力向上、義務教育学校に向けた準備をどう進めるか・・・ということであった。

働き方改革は休み方改革とし、改革を自分事とするため「プラスワン休暇」の奨励、「自走」するチーム、地域との協働、運動会からスポーツフェスティバルへ内容も変更し、負担軽減を図る。自分たち、子ども達のための働き方改革になっているかを問いながら働きやすい環境を整備していく。

〈リーディングDXスクール〉

これまで授業ではロイロノートを活用してきたが、「脱ロイロ」に方向転換し、汎用的なソフトウェアとクラウド環境を活用。先進校視察後、自校での取組につなげ「まずは校務DX」でクラウド活用を進めることから始めてきた。クラウドを活用した校務は便利さが実感できる。

「できることから できるひとから」やっていくことにしている。今後は、失敗OKの姿勢で授業改革を進めていく。

② 質疑応答

〈質問〉地域との協働で成功の秘訣は何か。

〈回答〉地域の人たちは学校に関わりたいと考えてくれている。やりたいと思うことをどのように実現できるかを考え進めている。

〈質問〉DX化を図るための担当者は置いているのか。

〈回答〉専任は置いていないが、活用できる場面でそれぞれがトライし、活用を広げている。

(4) 講評

北海道教育庁空知教育局 義務教育指導監 眞田 眞 氏

◇先月の研修の講師 天笠氏との会話の中から校長会員へのメッセージ

◇校長は常に学ぶ姿勢を。

◇危機管理をしっかりと。(虐待、飲酒運転等の事例より)

9 閉会式 空知校長会副会長 富樫 孝行 の挨拶で閉会